



### 女優 加藤あい さん

平成21年5月21日、ついに裁判員制度が開始された。現在、刑事司法の世界は大きな変革期を迎えているが、その中でも、裁判員制度は目玉の一つと言えよう。

今回は、その裁判員制度をテーマにしたドラマ「魔女裁判」（フジテレビ系）で、裁判員役として出演した女優の加藤あいさんに、裁判員制度や弁護士のことについてお話をお聞きした。

（聞き手・構成：臼井一廣，西岡 毅，谷川徹三）

——それでは早速ですが、加藤さんが女優になったきっかけを教えてください。

私の場合は、本当によくありがちなお話なんですけれども、13歳の頃に友人が歌手を目指していて、その友人から一緒にオーディションを受けようと誘われたんです。それで、一緒にオーディションを受けたら合格して、そのままお仕事を始めたという感じなんです。ですから、それほど自分から積極的に女優になりたかったというわけではないんです。

——女優という職業は色々大変かと思いますが、ご苦労されるのはどういうところですか。

苦労といっても、一つ、二つでは語れないほどの苦労がありますけど（笑）。

お芝居というものは、経験すればするほど難しく

なっていくので、そういう意味でも大変だと感じることもすごく多いです。芸能界というところも大変なところだなあと思うことが多いです。

——芸能界で大変というのは具体的にはどういうところですか。

やはり、何をするにも、常に誰かに見られているという自覚を持たないといけないところは非常に大変です。普通の生活を普通にしているつもりでも、どこかで、誰かに見られているという意識があって、気を抜ききれないというところがあるんですね。そんな生活にもだいたい慣れてはいるんですけど、それでも気が休まらないというのが正直なところなんです。

あとは、たくさんの方から、やたらと自分自身を評価されることが多いところも大変ですね。すごく自分を強く持っていないと、すぐに心が折れそうに

なってしまう。弁護士さんのお仕事でも他のどんなお仕事でも、そのお仕事を評価されることはもちろんあると思うんですけど、芸能界のお仕事というのは、見てくださる方がすごくたくさんいらっしゃるって、想像もできないくらい多くの評価を受けるんですね。しかも、お仕事の内容だけでなく、キャラクター的なことまで、とにかく色々なことについて自分自身を評価されますので、そういう意味で、なかなか大変な世界だと思います。

——それは、すごくストレスになりそうですが、オン・オフの切替えはどうされていますか。

たくさんの方に評価されるということについては、ストレスに感じるというよりも、受け流すように、気にしないように努めています。ですから、そのこと自体が大きなストレスになっているということはないです。

もちろん日頃の些細なストレスというものはありますが、私は、あまりストレスを溜めていく方ではなくて、気付いたら忘れていくというタイプです。ですから、基本的にはストレスを溜め込まないですみますので、何か特別なストレス発散方法が必要というタイプではないみたいです。自然とオン・オフの切替えがうまくいっているのかもしれないですね。

——お休みの日には何をされていますか。

実は最近、ゴルフを始めたんです。気の合うゴルフ仲間達と一緒に、打ちっぱなしに練習に行ったり、コースに出たりしています。

ゴルフをプレイするときは、仲間達とわいわい騒ぎながら楽しくやっています。ゴルフクラブを握っている時には、仕事のことは一切考えないですね。

——それでは、加藤さんが出演された裁判員のドラマ「魔女裁判」についてお聞きします。まず一般的なことからお聞きしますが、ドラマ撮影の際に、日常とお芝居が混乱するということはありませんか。

それは大丈夫ですね。ドラマの撮影期間中は、ドラマの仕事中心の生活になりますが、ドラマの中のキャラクターを24時間引きずってるわけではないですから。もちろん、日常生活のふとした時にドラマのことを考えることはありますが、それは、皆さんがお休みの日に仕事のことを少し思い出したりするのと同じようなものです。

ただ、今回、ドラマで初めて母親役をやらせていただきましたが、娘役の子が私にお手紙をくれたり、お絵描きをしてきてくれたり、すごくかわいくて、私にもこんな子供がいたら良いなあと思いました。撮影が終わって最後にお別れするときは、とても悲しい気持ちになってしまうかもしれません。

——ドラマ「魔女裁判」は、殺人被告事件の裁判員が買収されていくという重い展開の作品でしたが、やはり現場の雰囲気はカメラが回ってないときでもシリアスな感じなのでしょうか。

いえ、ところがそんなことはなくて、割とにぎやかな感じなんです。雑談も多いですし。

例えば、共演者の方々と、痛いしっぺの方法とか、どこをつねると痛いかなんて話をしていたりとか(笑)。

——それはちょっと変わった雑談ですね(笑)。

あ、どうしてそんな話題になったかと言いますと、「魔女裁判」は裁判員のドラマでしたから、評議室や法廷のセットでの撮影があるんです。その撮影のと

きは、狭くて暑いスタジオの中に一日中居るので、ボーとして眠気が来るんですよ。それで、眠気を覚ますためにはどんな方法が有効かという話題になり、共演者の方々と、しっぺしたり、つねったりしていたんです（笑）。

——今回、役作りの一環として刑事裁判を傍聴されたとのことですが、その率直な感想をお聞かせ下さい。

今までは刑事裁判といってもテレビや新聞等のニュースで見ただけでしたが、実際に法廷に行って傍聴してみると、目の前に被告人や証人がいて、そこでのやりとりを見ていると、ニュースの裏側、奥の生の事実が見えてしまって。そのとき見た被告人や証人はもちろん知らない方々ですけど、その方々に対して情のようなものも感じました。被告人にも、事件とは別の顔、別の一面、すごく人間らしい一面があったりして、すごく色々と考えさせられました。

——加藤さんは、裁判員に選ばれたと思いますか。仮に裁判員に選ばれたら、どのような姿勢で裁判に臨みますか。

自分から進んで選ばれたということはないですけど、でも、もし裁判員に選ばれたなら、ドラマの中の役と同じように、しっかりと事件に向き合ってきちんとやりとげたいと思います。裁判というのは、被告人や被害者の方の人生に大きく関わることですから。

でも、実際に判断を下すときには事件関係者の色々なことを考えてしまうでしょうから、有罪か無罪かの結論を出すのは本当に難しいだろうなと思いました。

——逆に、加藤さんが裁かれるとしたら、裁判員制度は

いかがですか。

私が裁かれるということは、私が何か悪事を働くということですか（笑）!? プロの裁判官の裁判と裁判員の裁判のどちらを受けたいかというのは、正直言ってよく分からないですね。

私は、裁判員制度について初めて聞いたときは、国民の意見が反映されるすごく良い制度だと思ったんですね。ただ、裁判をするには知識がすごく必要だろうと思いますので、一般の人が裁判に参加出来るのかなという不安があるのも事実です。人を裁くということは簡単なことではありませんから、今後は、選ばれた裁判員の方々も、今までのプロの裁判官の方たちと同じような精神的負担を受けるんでしょうね。

——では次に、弁護士についてお聞きします。加藤さんの中での弁護士のイメージについてお聞かせいただけますか。今、周りにたくさん弁護士がいますので、なかなか本音では答えにくいかもしれませんが（笑）。

いえ、大丈夫です（笑）。

弁護士さんと言えば、私の中での一番のイメージは、やっぱり『正義の味方』です！ ですから、もし私に何かあったときは助けて下さい。私としては、そんなときがこないことを祈りますけど（笑）。

あとは、率直に頭が良さそうなイメージはありますね。私は、大学で法律について勉強したこともありますが、すごく難しいと感じましたから。

——法律を勉強された際、弁護士という職業に興味は持たれませんでしたか。

恥ずかしいんですけど、実は、私は、子供の頃の将来の夢がキャビンアテンダントか弁護士さんの

もし裁判員に選ばれたなら、  
ドラマの中の役と同じように、  
しっかりと事件に向き合って  
きちんとやりとげたい。  
裁判というのは、  
被告人や被害者の方の人生に  
大きく関わることですから。

加藤あい



どちらかだったんです。図々しいんですけど（笑）。  
ですから、私にとって弁護士という職業は、小さい  
頃からの憧れの職業の一つなんです。10年くらいた  
って女優の仕事が一段落したら、法科大学院を目指  
してこっそり勉強を始めているかもしれません（笑）。

——弁護士会についてはどのようなイメージをお持ちで  
すか。

すいません、あまり明確なイメージは持っていま  
せんでした。

実は、2007年に、あるドラマで弁護士の役をやら  
せていただいたことがあります。そのときの役柄  
は、弁護士としてのカラーよりも、一人の女性とし  
てのカラーの方が強かったんです。だから、皆さん  
からお聞きするまで、弁護士会という存在について  
あまり意識する必要がなかったんです。

——最後に、加藤さんから弁護士に対して一言いただけ  
ますか。

私と弁護士の方々とは全然違うフィールドですか  
ら、私が頑張って下さいというのはおこがましいん  
ですけど、やっぱり、正義の味方、弱者の味方とし  
て頑張って欲しいと思います。

#### プロフィール かとう・あい

1982年12月12日生まれ。愛知県出身。女優。フジテレビ系  
ドラマ『魔女裁判』も好評のうちに終了。現在は初のNHKドラマ  
出演となる『リミット—刑事の現場2—』に出演中。ヒロインを  
務める映画『海猿』シリーズはこの夏第3弾の撮影が控える。  
主な代表作に、ドラマ『池袋ウエストゲートパーク』『ハケンの  
品格』などがある。